

Nihongo Network News

2000.7.21発行

No. 27

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

「ボランティア日本語教室 ガイド 東京 2000」 が発行！



待望の「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」が完成しました。助成金申請書を書く段階から含めると1年余りの大事業でした。幸い日本財団のボランティア援助金を受けることができ、昨年10月から20人のスタッフで調査をスタート。この7月にやっと完成にこぎつけました。従来の「教室ガイド」はTNVN会員を中心に掲載しましたが、今回は東京にあるボランティア日本語教室を網羅しようと、配布した調査用紙は300枚近くになります。東京の20地域から集まっているスタッフの利点を生かして各自が自分の近隣を担当、調査しました。都内在住といっても東京は広いので、スタッフの間では電話、ファックス、また、前回に比べTNVN内でもパソコンが普及したこともあって、Eメールも飛び交いました。

東京日本語ボランティア・ネットワークは活動目標の一つである、「日

本語学習者がより身近に学習の場を見つけることができる」ようにと、東京ボランティア・センター（当時の名称）より助成金を受けて1994年に、日本国際通信株式会社（当時の名称）の印刷費の助成で1997年に「ボランティア日本語教室ガイド」を作成、配布しました。ボランティアグループは年度ごとに連絡先や会場などが変わるケースが多いので、より正確な情報を提供するためには毎年作成するのが理想ですが、経済的な問題が障害となって果たせないでいます。今回は、日本財団ボランティア活動援助金の対象が広がったことが、TNVNにとって福音となりました。

見知らぬ土地に住むことになったら、たとえ日本の中であっても心細いことと思います。その上、もし言葉がわからないとしたら3倍の努力を要するでしょう。船が港に入る時にパイロットボートが安全に導くように、この

「教室ガイド」が地域に住む外国人・日系人・中国帰国者などの方々の水先案内人になることを期待しています。

この「教室ガイド」は、各日本語教室のほか、区市町村の外国人登録窓口、外国人相談窓口、国際交流協会、ボランティアセンター、区民センター、公民館などに置いていただき、地域社会に溶けこむきっかけを作る一助になってほしいと考えています。また、各国大使館、各種の外国人相談窓口、外国人等の支援をしている団体、ハローワークなどでも役立てていただきたいです。海外の日本センターのような日本を紹介する機関にもお届けして、来日する前に日本人のホスピタリティを感じていただけたらと願っています。

「外国人の日本語」に期待するものは？

『国語に関する世論調査』から

(世論調査報告書「平成11年度 国語に関する世論調査」大蔵省印刷局発行より)

先日、文化庁文化政策課から『国語に関する世論調査～言葉遣い・国際化時代の日本語』が発表になりました。新聞などで一部の内容を目にした方も多いと思いますが、今回はこの調査のなかから、外国人の日本語に関連のあるデータをご紹介します。

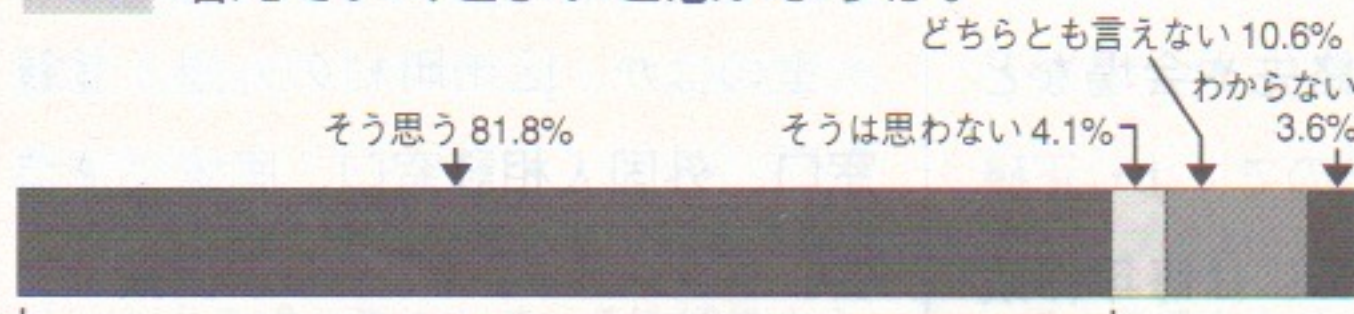
この調査は、「現代の社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の現状について」というもので、敬語や言葉遣い、国際化時代の日本語など19項目。全国の16歳以上の男女3000人を対象に、2000年1月に実施されたものです。

●日本語学習者の増加について●

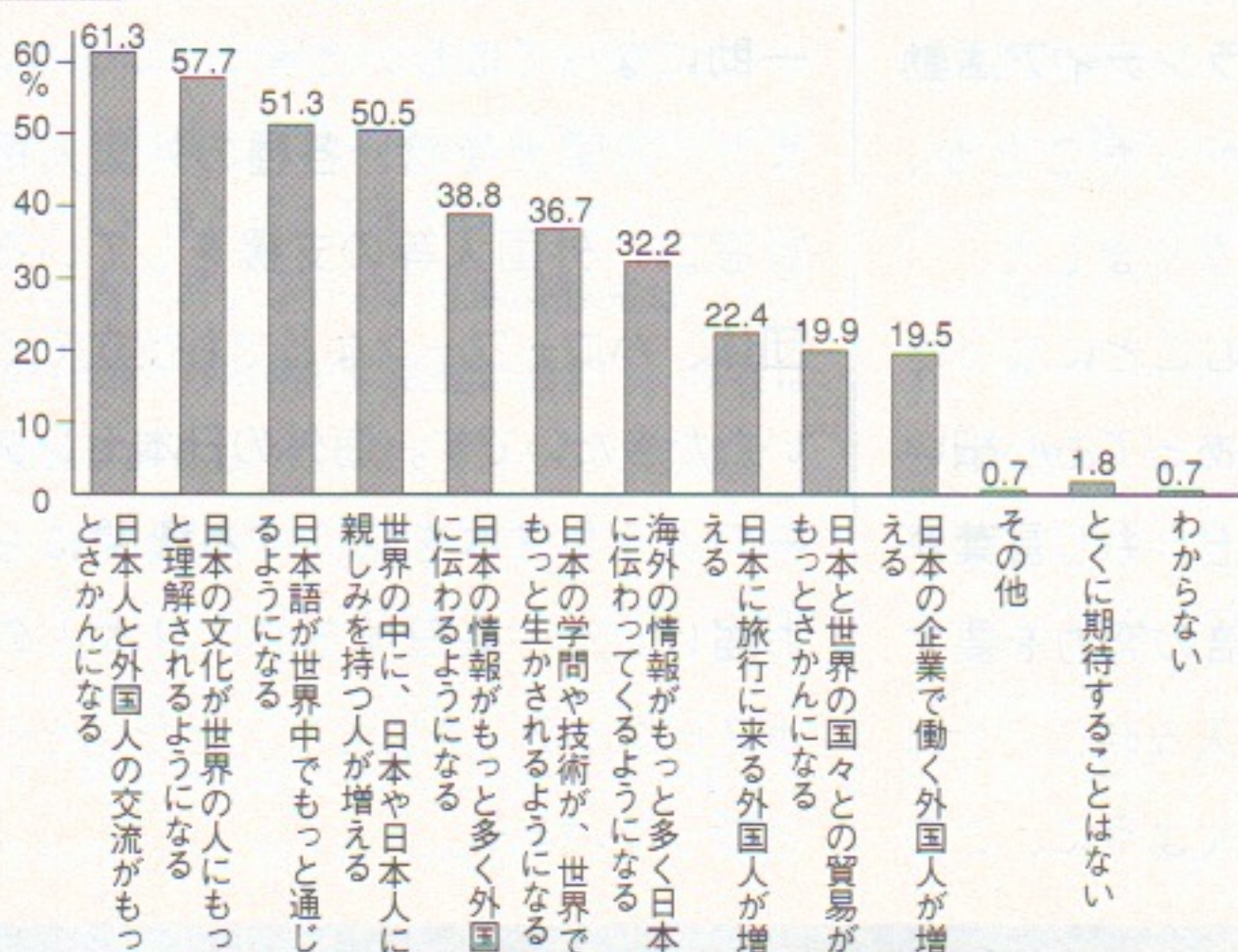
近年、日本に住んで日本語を学習する外国人だけでなく、海外で日本語を学ぶ人が増加しており、その数は数百万人にも達すると言われています。「これから日本語を学ぶ人が増えていくとよいと思うか」という問いに対しては、80%以上と圧倒的多数が増えるとよいと答えています。

次の「日本語学習者が増えることに対して期待するもの」という問いには、「日本人と外国人の交流がさかんになる」「日本の文化が世界の人に理解されるようになる」が上位を占め、日本語での交流に期待していることがわかります。

Q これから世界中で日本語を学ぶ人がもっと増えていくとよいと思いますか。



Q 日本語を学ぶ外国人が増えることに対して、なにを期待しますか？(複数回答)

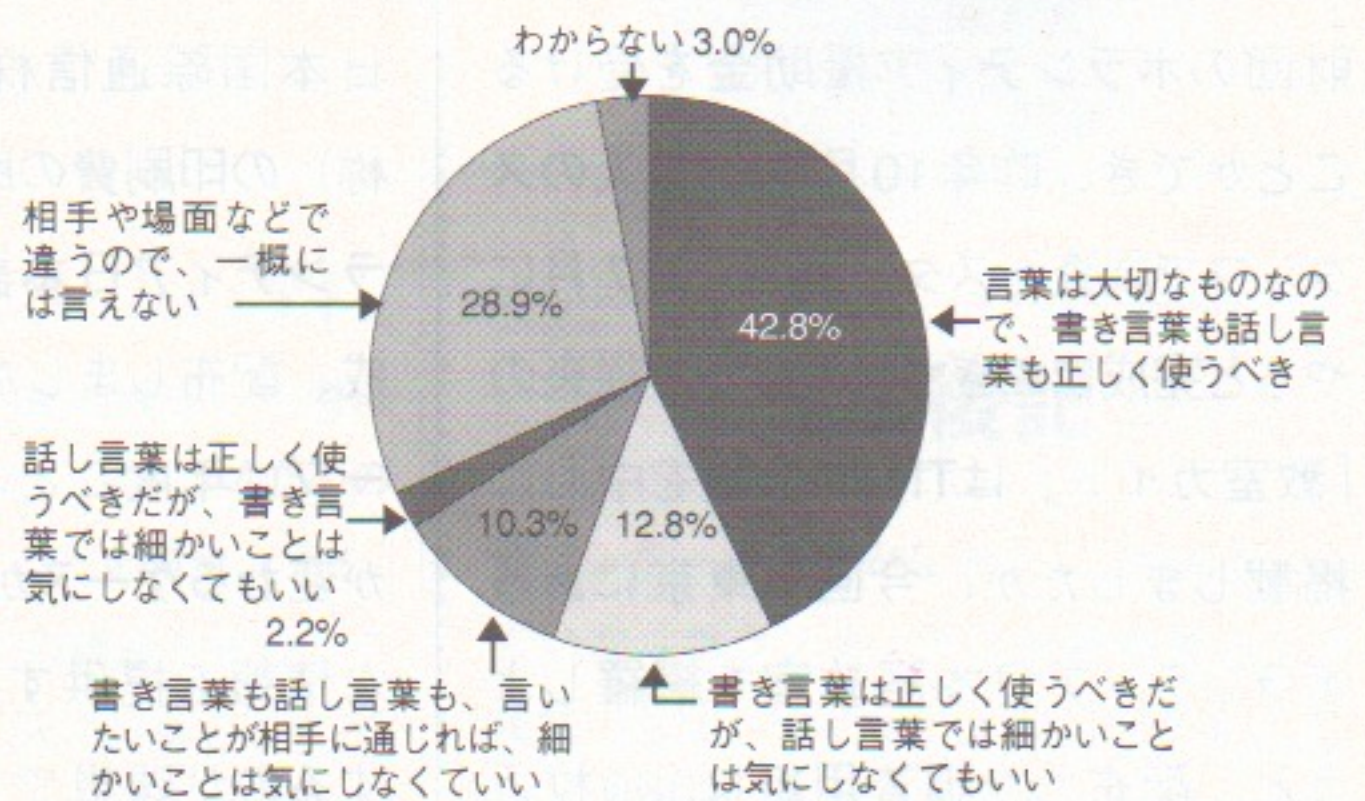


●話し言葉と書き言葉について●

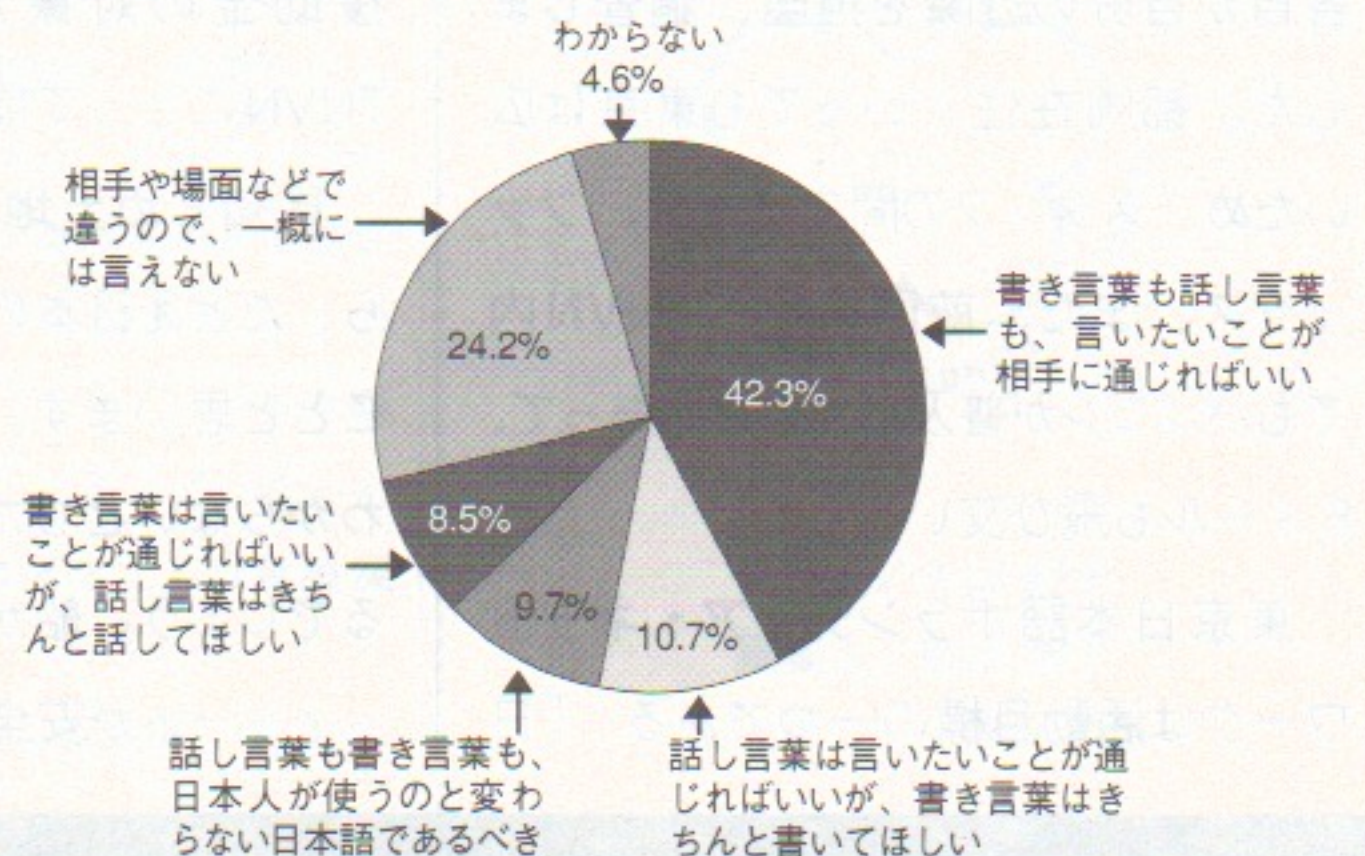
日常生活のなかで「話し言葉と書き言葉の使い方はどうあるべきと思うか」という問い(挙げられた五つの考え方のなかから、一番自分に近いものを選択)は、一般的な意識と外国人が使う日本語の場合について調査。その意識の違いがはっきりわかります。

一般的な意識では「言葉は大切なものなので、書き言葉も話し言葉も正しく使うべき」が1位で半数近くを占めているのに対し、外国人の日本語では「話し言葉も書き言葉も言いたいことが通じればいい」が1位でやはり半数近くとなっています。2位は「場面によって違うので一概には言えない」が24.2%と、4人に1人が回答。ボランティア日本語教室の学習でもしばしば直面する、場面や状況に合わせた日本語という使い分けに対する意識がうかがえます。

Q 日常生活のなかで話し言葉や書き言葉はどうあるべきだと思いますか



Q 外国人が使う日本語については、どう思いますか





ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボランティアからの提案

“カタカナからの導入”を考える

鷺見 三恵子 / OC Net (大田区)

ひらがなが先か、カタカナが先か？

ボランティア日本語教室では、学習者が成人か年少者か、クラス授業か個人指導か、また漢字圏か英語圏か、その違いにより指導方法は当然ながら違っているだろうが、文字の指導に関しては、だいたいどの教室でも、まずひらがな、それからカタカナという順で指導しているのではないだろうか。しかし、なぜひらがなから先に導入するのだろうか。ほんとうにひらがなから導入したほうが良いのかをここで考えてみたい。

日本語のひらがな、カタカナは、アルファベット26文字に対し、約100文字ある。漢字を除いても、学習者にとって、これはかなりの負担である。実際、ひらがなは何とか定着しても、カタカナの定着の悪さに頭を悩ませている学習支援者が多いのではないだろうか。生活の中で、ひらがなのほうがカタカナよりも圧倒的に多く用いられるので、ひらがなを先に導入する教室がほとんどだろう。でも、思い切って、カタカナを先に導入してみてもどうかと提案してみたい。

カタカナを先に導入するメリット

カタカナから導入する長所としては、カタカナはほとんど直線で成り立っている

ため、曲線がほとんどのひらがなよりも捉えやすく、書きやすいことがあげられる。また、学習支援者の手書きの癖は、しばしば学習者を困惑させるものだが、これもひらがなと比べてカタカナの場合は少ないので、板書でも学習者は読みやすい。また、長音の指導がひらがなのように複雑でなく、「ー」ですませられる。そして、カタカナをまず覚えることにより、町中にあふれている広告や店名、レストランのメニュー等が“日本語で読める”という喜びを与えることができる。つまり、日本の街の風景そのものが日本語学習の場となりうる。

ボランティア日本語教室で学ぶ学習者は、遠い先のゴールを目指している学習者ばかりではない。毎回の授業の中で、日本語が少しずつ身についていく現実の満足感がほしいのではないだろうか。その点から考えると、カタカナから導入するということは、日本語を学び始めて間もない学習者に自分の名前と自分の国の名を“日本語で書ける”という喜びや、うれしさを感じてもらえるし、役所の書類に記されている名前の「フリガナ」もカタカナで書ける。

カタカナを先に導入するデメリット

以上、メリットばかりをあげてきたが、

デメリットももちろんある。例えば、外来語のカタカナ表記の場合、原語の発音を活かすためにひらがなにはない表記をするものがあることなどである。ひらがなの撥音・拗音に使うのは「つ、や・ゆ・よ」だけだが、カタカナにはそれに「あ・い・え・お」が加わる。また「ヴ」の表記もあるので、この点も注意しなければならない。また、漢字圏の学習者が大多数の場合は、われわれが当然知っていると思っているフォークとかスプーンなどの外来語を知らない人がいることも考慮しなければならない。つまり、母語以外の外国語として日本語を学習しているのに、日本語ではないもう一つの外国語(英語など)を覚えなければならないという負担を負わせてはならない。国によっては、母国語以外の言葉を習ったことがないという人もいるからである。

また、日本語化した漢語や訓読みに、漢字圏の学習者が戸惑うように、日本語化した英語に英語圏の学習者は戸惑うだろう。(Puddingがプリンということは想像できないだろう)また、カタカナは語彙だけで文章には使わないため、書くことよりも読めることのほうに重点を置いて学習すべきかもしれないし、ひらがなに比べて使用頻度が低いため、忘れやすいなどの欠点もある。

今まで述べてきたことは、あくまでもひらがなカタカナをきちんと指導する場合の導入の順について私見を述べたもので、漢字を含めた文字学習がボランティア日本語教室でも必要なかどうかということは、また別の問題である。

以上の問題を認識しつつ、なおコンピューター言語など、外来語がますます生活の中に入り込んでいる今の日本で生活しなければならない外国人にとって、カタカナ学習が今までの文字指導のやり方でいいのか、いまいちど考えていきたい。ある意味で、ボランティア教室こそ、外国人の日本語指導の最前線にあるのではないかという思いが、最近してならないからである。



けやき並木のサロンに 遊びにきませんか？

府中国際交流サロン（府中市）

中村 弘美



はじめまして。
府中国際交流サ
ロンはボランテ
ィアグループが
集まって、平成
7年に設立され

ました。日本人と外国からやって来た人が共に府中で楽しく暮らしていくことを目的に、文化交流のための企画や日本語学習会、そのほか市民生活をサポートする活動を行っています。6年目を迎えた現在は、常時250名以上の方が活動する場になりました。

日本語学習会は週3日で5回、各2時間ずつ行われています。週1回、学習会の時間の前に「お茶会」や企画のイベントを開き、サロンに和やかな雰囲気を作っています。日本語学習会では特に日本語が入門レベルの学習者には「ボランティア」は圧倒的な立場になってしまい、お互い堅苦しくなることもあります。そんな時に「お茶会」で言葉を抜きにしていっしょにお茶を飲んだり、イベントに参加したりして気楽な関係で接することができるのがいいです。またボランティア同士の交流にも役立っています。もうひとつサロンの雰囲気作りをしているのがイベントの案内ポスターで活躍している「ブンブク」（狸ではなくクマ）です。

京王線府中駅から徒歩2分、けやき並木の傍らの緑豊かな環境にありますので、ぜひ遊びに来てください。



はじめまして、 活動は初めたばかりです。

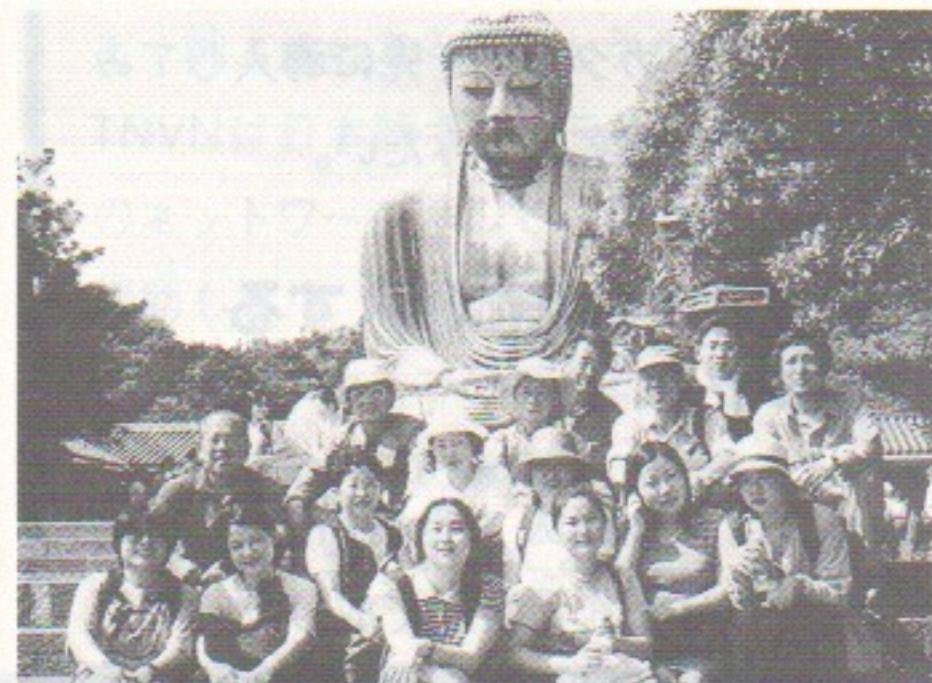
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会（新宿区）

梶村 勝利

つい先日、私たちの「日本語サークル」を紹介する写真展が早稲田奉仕園のロビーで開かれました。この2年間の活動風景50枚の写真を満載、拡大カラーコピーの画面には真剣さの中に笑顔と楽しさがいっぱいでした。またボランティアの手作り会報「こんにちは日本語」は第4号を発行。ボランティアが学習者を紹介、メンバーに広く知ってもらい一層の親睦を深めています。

さて「日本語サークル」は2年前の1998年6月から始まりました。早稲田奉仕園で開講された日本語教授法講座修了者が早稲田大学の留学生・研究者を対象に、日本語の支援をすることでスタートしました。学習者の時間割を考慮し、今では水曜日に午前・午後・夕方の3回、現在約15名のボランティアで対応。なかには3回とも支援をしている人もいます。

クラスは学習者とマンツーマンで進め、時には2・3人を相手に話題提供に苦労します。日本での生活に接し、日常会話から大学でのレポート・論文の日本語表現を支援、新聞・雑誌を読み、話題は研究の経済・政治・歴史にも広がります。お国の話も飛びだし、私たちの学習欲をかき立てます。また、いっしょに来日した奥さんやご主人も加わり、日常の生活の会話に花が咲き、会話力は急速に上達しています。



わたしの国

ボルカル・シヤリニ／インド
(江戸川にほんご交流会／江戸川区)

わたしはシヤリニです。インドから去年9月に日本へ来ました。主人は銀行につとめています。

今日はインドのことを話します。インドはひろくて、人が多い国です。インドは北から南まで、西から東まで、ぜんぶちがいます。一番北は雪がふりますが、だんだん南のほうへ行くとあつくなります。ことばが18あります。わ



たしは南のしゅっしんですから、タミル語を話します。でも、西のボンベイの学校で勉強しましたから、マラティ語もならいました。インドのきょうつうのことばはヒンディ語です。宗教は7つあります。

食べ物いろいろあります。一番北はインドのチャパティというパンを食べます。南はごはんを食べます。まんなかはチャパティもごはんも食べます。インドのようふくもいろいろあります。インドはいろいろな人たちはいっしょに住んでいます。

これで終わります。どうもありがとうございます。

日本の生活

花井アピロム／タイ
(ともだち／足立区)

わたしが日本きて6年がすぎました。6年のうちに2人こどもがうまれました。おとこのです。5さいと2さいです。

私はタイ人です。こくさいけっこんていろいろたいへんですね。まわりのしらない人ばかりでことばもちがう、しゅうかん、せいかつもちがう私ふあんでした。こどものそだてかたと日本のいろいろのこともよくわからない私はどうやっていけばいいでしょうとなやんでいました。

そのとき日本人のともだちができました。その日本人のともだちは3人こどもがいました。3

人ともおとこのこです。9さいとふたごの7さいのこどものそだてかたはだいせんぱいです。私は日本人のともだちから、日本のしゅうかん、せいかつのことと、こどものそだてかたをいろいろおしえてもらいました。

私はいま日本のことがすこしずつわかりました。まえとくらべたら、らくになりました。ちょっとおやばかだけど私の2人のむすこはかわいいです。しゅじんと、こどものせいちょうをみまもっていきたいとおもいます。

昨年秋から参加している弥生日本語の会で、私は二人の韓国人婦人と日本語を勉強しています。小中学生のお母さんで、丁度私の娘ぐらいの世代ですので、とても可愛く思え、また彼女たちも私に親近感を持ってくれるので毎週逢うのがとても楽しみです。

彼女たちは日本語をととても良く勉強していて教科書の内容をほとんど理解できるのに、何故か自信がないようです。私はもっぱら「もっと自信を持って話をなさい」と励ましているのですが、こんなところは日本人の心情に似ているなあと思います。というのはかつて夫の勤務先のイギリスで3年程生活したとき、間違ったら恥ずかしいとの思いからなかなか英語を話せなかった経験があるからです。文法も何のその自分が知っている英語を駆使してどんどん話すラテン系の人たちがうらやましかった事を思い出します。

私は日本語教育に関しては不勉強ですが、歳を重ねた分だけ人生経験や雑多な知識は豊

富に持っているので、いろいろなアドバイスができると思います。日本語教育について勉強する事も必要ですが、私の経験や知識を総動員して学習者に日本語や日本のことをもっと知ってもらえたらと願っています。そして帰国後も日本の良い印象を忘れずいつまでも日本に親しみを持っていてほしいと思います。

また、学習者の話してくれる故国の現状や歴史などを聞く事はほんとうに楽しみで、まだ見ぬ国々への憧れは募るばかりですが、いつかは訪れたいと思っています。今後も彼ら彼女らから多くのことを教えてもらいたいと思っています。



娘のよひな学習者と
千葉紀代子 (弥生日本語の会／文京区)

まち居住研究会

Tel : 03-3238-0574 Fax : 03-3238-7878

住宅政策の視点から、 現場の問題点を行政に提言

この4月、川崎市では、高齢者・障害者・外国人等の民間賃貸住宅への入居機会の拡大を目的に「住宅基本条例」が制定されました。この条例は、理念としての入居差別の禁止だけでなく、それに対する具体的な支援策を導入したという点で画期的なものとして、各方面から注目を集めています。確かに、居住問題は、これからの高齢化社会や国際化を考える上で避けては通れないものとなることが予想されます。そこで今回は、外国人居住問題に長年取り組んでいる「まち居住研究会」をお訪ねし、稲葉佳子さんにお話をうかがいました。

【高齢者の住宅問題から、 外国人の問題へ】

「まち居住研究会」の稲葉さんは、都市計画のコンサルタント事務所勤務を経て、1990年、現在の事務所「ジオ・プランニング」を友人と設立。当初は主に高齢者の住宅政策に関わっていて、バブル末期に木賃アパートの地上げにともなう一人暮らしの高齢者の深刻な問題に出会ったそうです。そして、当時急増していた似たような問題を抱える留学生や外国人労働者等の居住問題にも着目するようになり、それまで建築や都市計画等のジャンルでは取りあげられなかった外国人居住問題について、正確に調査を試みることを思いました。

「それまでは、日本に住む新来外国人という欧米系で高級マンションに住んでいるような方が多かったのですが、普通のアパートなどで外国人と隣りあわせに暮らすことが当時急速に日常化しつつありました」と稲葉さん。もともと行政や自治体に関わる仕事をしてきたこともあり、建築・都市計画関係の仲間と自主研究グループを組んで、大久保界隈のアパートを1軒1軒調査。どこに外国人が住んでいるといった情報もなく、同じアパートに何度も足を運んだりしたそうです。調査は、国籍や日本に来た目的

等の基本事項からはじめて、住宅をどのように見つけ、その時に困った問題があったかどうか、これは1件目の住宅なのか、それとも移り住んだものかなど、居住歴やそれに関するトラブル等を一人一人から聞き取り調査しました。

【調査をさらに発展させ、 リーフレットを発行】

結局、この調査は2年にも及び、不動産業者や家主からのインタビューも交えて報告書にまとめました。続いて、これまでの調査をより発展させるため、有志で「まち居住研究会」を発足。この「まち居住研究会」では、1980年代後半から急増したニューカマーズについて、欧米人・中国人・アジア系労働者・日系人というカテゴリー別に彼らの抱える住宅問題や地域の実状を調査し「住宅時事往来」を発表。1992年から93年まで発行された“気軽に読み物として読んでもらえるような”リーフレットを冊子としてまとめ、自治体の住宅政策に関わる人や研究者等に外国人居住問題への理解を促しました。

「それを作ったのには、調査した大久保以外の事情を知りたいという意味もありましたが、同時に、当時はまだ特異な目で見られていた外国人が、実際は我々と同じように暮らしているのだということを広く伝えたいと思ったからです」（稲葉さん）。これらの成果は『外国人居住と変貌する街』（学芸出版社）として出版されています。



【地域社会へダイレクトに 情報を還元

その後、「住宅時事往来」では住宅問題からコミュニティ問題・地域社会との関係へと視点を移し、定住歴の長いインドシナ難民や中国帰国者の問題等もとりあげるようになり、阪神大震災のときにも調査を手伝いました。そのなかで、日本がいよいよ内なる国際化への対応を迫られる時代に入ったことを実感し、これまでの調査研究を報告するだけでなく、今後は地域の人たちにダイレクトに還元したいとも考えるようになりました。

そこで1998年からは、それまで数名の専門家のみだったメンバーを拡大し、新宿区大久保地域を基盤に個々に活動していた地元の日本人・不動産関係者・外国人等との連携をとりはじめました。ここでは、日本人と外国人が共に暮らすための「国際化に向けた共住のためのルール・システムづくり」を考え、提言するための勉強会を定期的開催。グローバルルールを模索するために海外の賃貸借事情を調べたり、地域の分譲マンションでの外国人世帯の入居・対応状況等の実態を調査したりしました。

そして2000年にはその集大成として「日本の住宅賃貸借契約システムの改善に関する提案」と「海外の賃貸借事情～外国で部屋を借りるときにはどうするの?～」を刊行。また、「きょうから大久保-日本人と外国人がともに暮らすためのガイドブック-」(頒価¥800)もこの7月に出版の予定です。これは日本の賃貸借事情を総ルビ付きの簡易な日本語とイラストで解説したもので、部屋探しの方法から「引っ越したら、まずはあいさつ」といった日本の慣例・ゴミの分別や騒音問題・共用部分の使い方までをくわしくとりあげています。

「調査の結果、生活ルールやトラブルとなる事柄は国によって違い、グローバルルールは存在しないことがわかりました。ですから、日本で暮らす外国

の方には、背景にある日本の文化や価値観・生活様式を伝えながら生活ルールを理解してもらおうと思ったのです。日本に来て日が浅い方にもわかるように外国人メンバーといっしょに何度も文を練り直し、絵で理解できるようにイラストを多用しました」(この本の購入希望は「まち居住研究会：03-3238-0574」まで)

【専門性を活かして 行政と現場の橋わたしに

お話を聞いて、外国人のためにというだけでなく、外国人という視点によって見えてくる「日本の賃貸借事情における矛盾点」を変えていきたいのだ、という意見にとっても感銘を受けました。確かに「外国人お断り」や「高齢者お断り」に共通する意識は「障害者お断り」「単身女性お断り」「子連れお断り」等の意識と同様のもので、それは国籍とは関係なく、日本に暮らす誰にとっても密接な問題となりうるものなのかもしれません。

また、ボランティアや市民活動ではどうしても現場にいる人がクローズアップされがちですが、実際はそれだけではなく、いろいろな立場で関わっている人々がいるからこそ成立しているのだ、ということもあらためて考えさせられました。

「私たちは現場で部屋のない人に一軒一軒家を紹介するといった活動をしているわけではないけれど、職能的には自治体等の政策のこういうところを改善してほしいと働きかけられる中間的な立場でもあるのです。現場の実態をしっかり把握し、私たちの専門性を活かして、その問題点や課題を整理し提言したり住宅政策等に反映させていく、そういうスタンスで活動していきたいと思っています」という稲葉さんの言葉が印象的でした。



前回は、「学校」の「学」が「がっ」のように促音になるのは【1】のような規則があるからで、「学生」の「学」はその規則に当てはまらないか

ら促音化しないという話をしました。また、助数詞の規則 (1) a.と (2) b.も参考に挙げておきます。

- 【1】 「〜く」 + 「k-」 → 「〜っ+k-」 (例) がく+こう→がっこう (学校)
 (1) a. 「ろく」 + 「k-」 → 「ろっ+k-」 (例) ろく+かい→ろっかい (六回)
 (2) b. 「ろく」 + 「h-」 → 「ろっ+p-」 (例) ろく+はい→ろっばい (六杯)

ただし、【1】は (2) b.と違って、は行が続くときに「く」は促音化しません。それは学派(「がく」+「は」)や作品(「さく」+「ひん」)などを見ればわかります。

「ん」+「ぼう」などから、音読みの漢字熟語では、「ん」の次の「は行」は「ば行」に変わることがわかります。つまり、助数詞規則 (2) a.は次の【2】になります。

- また、反発(「はん」+「ばつ」)や憲法(「けん」+「ほう」)などから、音読みの漢字熟語では、「ん」の次の「は行」は「ば行」に変わることがわかります。また、(1) 1b.の①と②の場合と同様、「つ」の場合は「か行」「さ行」「た行」の前でも促音化が起きます。
- 【2】 「〜ん」 + 「h-」 → 「〜ん+p-」 (例) けん+ほう→けんぼう (憲法)
 (2) a. 「さん」 + 「h-」 → 「さん+b-」 (例) さん+ほん→さんほん (三本)

さらに、圧迫(「あっ」+「ぼく」)や出発(「しゅっ」+「ぱつ」)などから、音読みの漢字熟語では「つ」の次でも「は行」が「ば行」に変わり、さらに「つ」自体も促音化することが

わかります。また、(1) 1b.の①と②の場合と同様、「つ」の場合は「か行」「さ行」「た行」の前でも促音化が起きます。

- 【3】 「〜つ」 + $\begin{cases} \text{「k-」} \rightarrow \text{「〜っ+k-」} \text{ (例) てつ+きん} \rightarrow \text{てっきん} \text{ (鉄筋)} \\ \text{「s-」} \rightarrow \text{「〜っ+s-」} \text{ (例) くつ+せつ} \rightarrow \text{くっせつ} \text{ (屈折)} \\ \text{「t-」} \rightarrow \text{「〜っ+t-」} \text{ (例) はつ+てん} \rightarrow \text{はってん} \text{ (発展)} \\ \text{「h-」} \rightarrow \text{「〜っ+p-」} \text{ (例) しつ+はい} \rightarrow \text{しっばい} \text{ (失敗)} \end{cases}$

(1) b.の最後の例(「じゅう」+「ほん」→「じゅっほん」)は数は少ないのですが、歴史的仮名遣いの音読みが「〜ふ」となっていたもので、たとえば、十(じふ)、執(しふ)、合(かふ/がふ)などがこの規則に当てはまります。たとえば、十本(じっほん)、執筆(しっぴつ)、合併(がっぺい)などがそうです。また、早急(さっきゅう)、納得(なっとく)などにも【3】の規則が適用できます。

前、この規則について何度か日本語のクラスで学生に説明したことがありますが、あまり好評を博したことはなかったように思われます。ということは、漢字熟語を覚えるには、実際に単語として一つ一つ覚えていくほうが早いし、覚えやすい(あるいは使いやすい)ということでしょうか。ただ、そのときは実際の単語を使った練習をあまりしなかったのも、そういう結果が出たのかもしれないし、少数ながら「面白い!」と言ってくれる学生もいたので、それほど利用価値がない規則でもない自分を慰めています。

以上、音読みの漢字熟語に関する発音の変化について少し詳しく述べましたが、【1】～【3】だけでも覚えるのは難しいのかもしれない。

田無国際交流サークルでは5月19日から「日本語ボランティアとは、その現状」というテーマで講習会を開催。この講習会にTNVNから数人が講師として参加しました。講習会は全8回で企画され、初日のこの日は、これから日本語ボランティアの活動を始めたいという35人が熱心に話を聞いていました。

講習会に先立って、TIC代表の飯塚氏がTICの年間計画と活動上の注意を、続いて田無ボランティアセンターのスタッフからボランティアについての話があり

田無国際交流サークル (TIC) で、日本語ボランティア講習会を開催

ました。この説明をされたスタッフもTIC会員とのことで、活動の仲間に若い男性会員がいることを羨ましく感じました。

この回を担当した私は、日本語ボランティアとは何か、どんな活動をしているかを説明し、その魅力・注意点・希望事項などをお話しました。講習会によって

はこのような話をせず、日本語教授法だけというものもありますが、日本語ボランティアの講習会では活動のオリエンテーションとしてぜひ取り入れてほしいと思います。

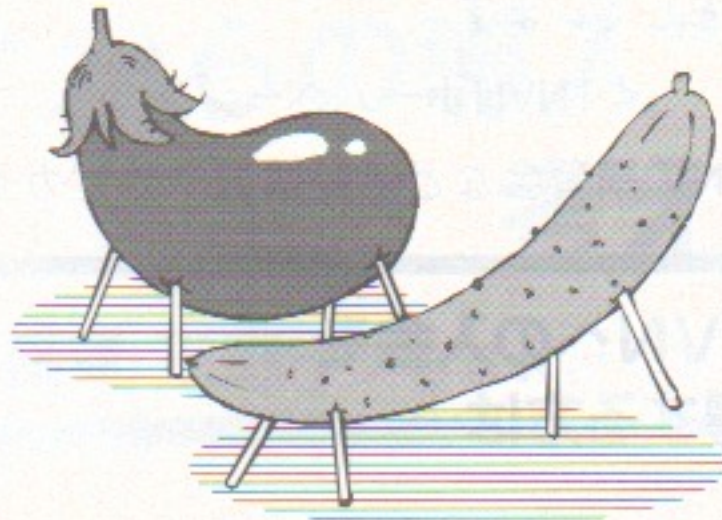
(床呂 英一)

日本の常識

Common sense in Japan

第10回 お盆の習慣

じめじめとした梅雨の時期が終わると、いよいよ夏がやって来ます。日本では遠い昔からこの暑い最中に、年に一度帰って来る先祖の霊魂を迎えるという風習があります。この時期を「お盆」と言い、各地でいろいろな行事が行われます。



◎旧暦と新暦

日本での行事は、旧暦（＝太陰暦…月が地球のまわりを一周する時間を基本にした暦）で行われる場合と新暦（＝太陽暦…地球が太陽のまわりを一周する時間を一年と定めた暦）で行われる場合があります。各種の行事はこのどちらかの暦で日程を決定しており、お盆は旧暦を採用している地域では8月15日前後、新暦の地域では7月15日前後にあたります。

◎お盆の迎え方

お盆を迎える日（13日前後）には家の門口でおがらを燃やし、祖霊を迎える「迎え火」を焚いて、帰って来る祖霊の足元を照らし、道しるべとなるわけです。先祖を乗せる迎馬（なすやきゅうりで作る）に火をまたがせることで祖霊が現世に帰り、祖霊を迎えた後にこの火をまたぐと病災を防げるとも言い伝えられています。

仏壇の前には「盆棚」を作り、季節の野菜や花・白玉だんご・そうめんなどを供え、祖霊を乗せる迎馬・送馬としてなすの馬（または牛）・きゅうりの馬（または牛）、わら・マコモで盆馬を飾ります。これは祖霊が

馬にまたがり、牛に荷物を背負わせて帰って来るためのもの。

盆棚の脇には堤灯が灯り、家を離れて暮らしている家族や親類もこの時期に帰省し、久しぶりに家族が集まります。こうした習慣から、8月のお盆の時期には交通機関の混雑や高速道路の渋滞がニュースになる程で、これもまた夏の風物詩のひとつです。

◎お盆の送り方

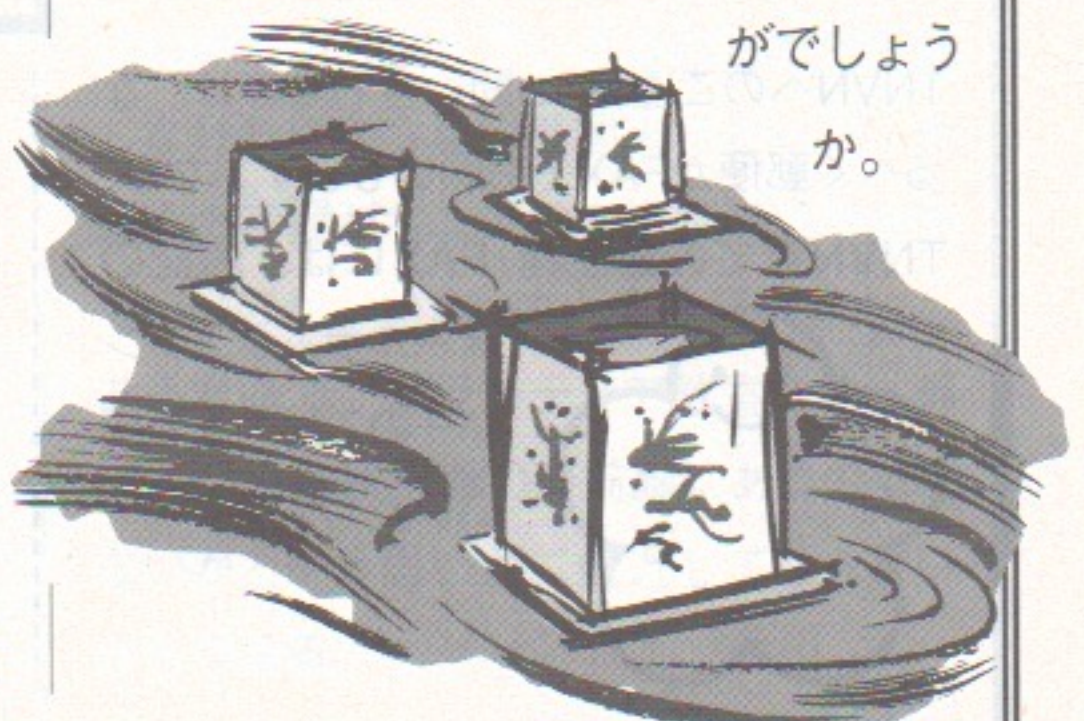
お盆の最終日（16日前後）になると、精霊を送る「送り火」が家々の戸口で焚かれます。迎えた時と同じように、送馬に火をまたがせ、無事に祖霊を送り返します。

盆棚は15日の夕方、または16日の早朝に取り払い、お供え物や飾りを川や海に流します。これが「精霊流し」と言われる風習で、送り方（流し方）は各地方でそれぞれ違います。この精霊流しが変化して生まれたのが「灯ろう流し」です。同じようにお供え物を精霊舟に積み、ろうそ

くをつけて川や海に流します。現在では板きれに立て紙で四方を囲み、中央にろうそくを立てた簡単なものになり、精霊を送る火という意味も薄らぎ、納涼の行事となっています。毎年8月16日に行なわれる京都の大文字焼きも、お盆の精霊送りの火祭りです。

◎盆踊り

お盆の季節、各地の広場などで開催される盆踊りも、本来はこの世に帰って来る祖霊を迎え、慰めるために歌や音頭に合わせて踊ったもの。広場の中央にやぐら（祭壇）を立て、それを囲むように輪をつくって踊ります。行列をつくって町を練り歩く地域もあり、疫病神を踊りにのせて町や村から追い払うという意味もあります。今年は夏の訪れとともに、お盆



NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。これまでに日本語ボランティアの経験がないという方は、活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

2000年7月28日(金) 午後6～8時
2000年8月11日(金) 午後2～4時
2000年8月25日(金) 午後6～8時
2000年9月8日(金) 午後2～4時
2000年9月22日(金) 午後6～8時

◆テーマ

(7月) 日本語ボランティアとは
(8月) 日本語再発見！
(9月) 学習者はどのような人たちか

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
会議室 (JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

TNVN宛て郵便物にはメール ボックスナンバーのご記入を！

TNVN事務局は、毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、なるべく郵便かFAXをお願いします。なお、TNVN宛ての郵便物・FAXには、右記の

メールボックスナンバーのご記入をお願いいたします。



TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス！

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしています。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイ

ドの情報も掲載しています。

◆URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。

会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に『年会費』と記入)

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター 気付
メールボックス No. 4

TNVN 東京日本語
ボランティア・ネットワーク

TEL : 03-3235-1171
(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL : 03-3235-1171 (呼出し)

連絡先の変更等は、 郵便かFAXで

正会員(団体)や協力会員(個人)の方で住所変更のあった場合、団体や代表の連絡先が変更になった場合は、TNVN事務局まで郵便やFAXでお知らせください。また、TNVNを退会される場合も書面で通知していただくようお願いいたします。

年会費の納入に ご協力ください！

TNVN会員の皆様には、すでに新年度の年会費の振込用紙をお送りしていますが、もう納入はお済みでしょうか。

TNVNは日本語ボランティア団体の民間のネットワークとして、自治体等からの援助もなく、会員からの会費収入とボランティアスタッフの労力によって運営されています。その事情をご理解の上、すみやかな会費の納入にご協力ください。

「防災体験」のご案内

日本語学習者の中には、出身国で地震の経験や知識のない方も多いため、教室の課外活動等に体験学習をとりいれてはいかがでしょうか。東京消防庁では防災の知識や技術・行動力を高めることを目的に、体験型学習施設「防災館」を開設しています。

◆会場

◎池袋防災館：豊島区西池袋2-37-8
(JR池袋駅西口より徒歩5分)

TEL：03-3590-6565

◎本所防災館：墨田区横川4-6-6
(JR錦糸町駅北口より徒歩10分)

TEL：03-3621-0119

◎立川防災館：立川市泉町1156-1
(JR立川駅北口2番より、防災センター経由または国立病院経由のバスで立川消防署前下車)

TEL：042-521-1119

◆費用／全館とも無料

◆申し込み・問い合わせ

上記の防災館まで。

10名以上での利用はあらかじめ電話連絡をお願いします。

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/mus.htm>

「これからの日本語教育を考える」シンポジウム

◆日時／8月21日(月) 10:30～17:00

◆会場

東京会場：国立教育会館本館 虎ノ門ホール（千代田区霞が関3-2-3）

◆内容

10:30～10:50

主催者挨拶・日本語教育事業説明

10:50～12:30

地域日本語教育セミナー

(テーマ：今後の地域日本語学習支援のあり方を考える)

12:30～14:00 休憩

14:00～17:00 シンポジウム

(テーマ：未来を支える日本語教員養成のあり方を考える)

◆定員／1000名

◆参加方法

東京会場への参加希望者は、参加申し込みは不要。ただし、当日定員を超過した場合は入場できないことがあります。

◆問い合わせ

文化庁文化語部国語課 日本語教育係
千代田区霞が関3-2-2

TEL：03-3581-0089（直通）

FAX：03-3591-0426

東京ドームのプロ野球に外国人をご招待

日本ハムファイターズのご好意により、今年も外国人の方々を東京ドームでのファイターズ戦にご招待します。

◆日時／9月3日(日)13:00より

◆会場／東京ドーム

◆試合

日本ハムファイターズVS千葉ロッテマリーンズ

◆締切り／8月26日(土) 必着

◆申し込み方法

80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、団体名と希望人数(1グループ10枚まで)を明記して、下記まで申し込んでください。

〒187-0045 小平市学園西町2-7-13-102

定住外国人支援ネットワーク

山崎アレン美智子

「東京都高校生留学事業」ホストファミリー募集

東京国際交流財団では、アジアを中心とする6地域から高校生を一年間受け入れ、東京の家族と学校での生活を体験してもらう「東京都高校生留学事業」を行っています。

草の根の国際交流の場として、その留学生を受け入れてくださる都内の家庭を募集しています。

◆留学生の国籍

インドネシア・オーストラリア・ブラジル・香港・マレーシア・タイ

◆受入期間／2001年3月中旬から1年間

◆募集期間／2000年10月31日(火)まで

◆申し込み・問い合わせ

財団法人東京国際交流財団

総務部国際交流課

TEL：03-5221-9027～9

URL <http://www.tif.or.jp>

IPS日本語ホームページ開設のお知らせ

「インター・プレス・サービス(IPS)」が、アジアのニュースを中心に集めて再編集し、日本語に翻訳したホームページを開設。IPSが契約するアジアの記者が現地の感覚で書いたルポや記事が掲載されています。

◆ホームページURL

<http://www.ipsnihongo.org>

◆IPSについて

IPSは「南半球から北半球への情報発信」を目指してニュースを配信する通信社。100を超える国々の特派員が集めたニュースを配信し、主にアジア・アフリカなど

第3世界の出来事に分析や批評を加えたものを届けています。

◆IPS日本語について

IPS日本語のホームページでは、IPSが発信するニュースのなかから、アジアのニュースを中心に選んで日本語訳し、月～金曜日に毎日1本ずつニュースを配信。記事は現地の一線で活躍する記者が直接取材した生の情報で構成され、主に「国際」「社会」「環境」「女性」「人権」「医療」の6分野でニュースを発信しています。

BULLETIN BOARD



去る4月22日のTNVNの第7回総会で副代表に推薦され、梶村さんとごいっしょに仕事をする事になりましたが、2ヵ月に1回の運営委員会にも残念ながら毎回出席することが難しい現状で、果たして副代表としてその責任を遂行して行けるか危惧の念を抱いております。しかし「まちだ地域国際交流協会(MIFA)」はTNVN発足以来ネットワークの一員として参加しており、現在もMIFAから床呂さんが運営委員として出席されていることは私にとって心強い限りです。

役員やスタッフの方々が忙しい毎日を作り繰りして、事務局、広報、入門講座、ホームページ、発送、会計などを担当されていることに敬意を表したいと思います。

ボランティアは無理をしないで、楽しく、そして長続きすることに意義があると思いますが、長続きするという事は、この欄で以前、大久保澄子さんも指摘されています。そして、日本語ボランティアは学習者に対して日本語を支援するだけではなくて、いろいろな相談事を持ちかけられることが多く、それが相互の信頼感に繋がっていくわけですが、その際決して安請け合いをしないこと。日本人はえてして好意から安請け合いをしてしまい、それが自分を苦しめることになります。

これからはスタッフの一員として、TNVNの発展に協力したいと思います。

大原 徹夫 (TNVN副代表)

地域の日本語ボランティア事情

大田区発

大田区では、外国人登録をしている人で全人口の約2%に当たり、また、未登録の人たちがその半数は住んでいると思われるので、全人口比で3%、約20,000人が生活していることとなります。京浜工業地帯の中小工場が集中している地域性から、職住接近のなか、多くの労働者やその家族がボランティア日本語教室で学んでいます。このため研修生やその家族、留就学生中心の他の地域の教室とは、学習者の傾向が異なっていると言えるかもしれません。

区内のボランティア日本語教室は、'92、'93年頃より本格的に活動が始まり、現在は登録があるものだけで7グループが活動しています。規模的には、学習者・スタッフが数名から100名余りの教室まで、会場は自前や小学校・区立山王会館などを使用しており、形態も直接法あり、英語を媒介語とするもの、と多岐にわたります。

区では、日本語ボランティアをめざす人のための「ボランティア養成講座」や現に活動している人のブラッシュアップのための「ステップアップ講座」などを開講。また、グループによっては自前の講座を開設しているところもあります。区の行事としては、各グループの学習者や一般公募した人たちによる「日本語でスピーチ」という発表会が毎年実施されています。

最近の動向としては、'98~'99年の「ステップアップ講座」を機会に、受講した人たちの間で「日本語サロン」が立ち上げられ、各グループ間の横の連携をめざす動きがあります。実際には、「日本語サロン」のなかだけでの活動になってしまい、それを媒介にして全体の活性化には至っていないということですが、志向するところは意義深いと思います。

鈴木 隆 (OCNet/大田区)

SPECIAL THANKS

★まち居住研究会様
 快く取材に応じていただきました。

メディアに見る TNVN情報

◆インターネット・マガジン
 『BESTLIFE ONLINE』
 (http://www.bestlife.ne.jp/)
 日本語ボランティアと活動事例の紹介

WELCOME!
 新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)
 落合 正周、花木 陽平、大原 徹夫
 大坪 静子、谷島 恵美子、廣瀬 朋子
 (敬称略)
 2000年7月10日現在の会員数は、正会員
 71団体・協力会員83名・賛助会員10です。



編集後記

●アンケート等でみなさまにご協力をいただいた『ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000』がいよいよ発行されました。多くのスタッフの汗と労力と睡眠時間の結晶です。これからの活動にぜひお役立てください。



発行人/中田 紀子
 編集人/前田 恭子
 レイアウト/鶴田 環恵